



# くすり博物館だより

〒483 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・Phone: 058689-3111

第11号

大阪・心齋橋 大丸心齋橋店  
4月14日～4月19日  
東京駅八重州口 大丸東京店  
4月21日～4月26日  
川島（岐阜県） くすり博物館  
4月28日～6月30日

主催 第21回日本医学会総会  
内藤記念科学振興財団

後援 厚生省  
世界保健機関(WHO)  
日本医師会  
大阪府医師会  
東京都医師会  
岐阜県医師会  
愛知県医師会  
朝日新聞社  
NHK大阪放送局  
英国・ウェルカム財団



▶ジェンナー青銅像  
英国ロンドンウエルカム財団蔵

## 天然痘ゼロへの道

— ジェンナーより未来のワクチンへ —

1980年5月8日、WHO（世界保健機関）は、その総会において全世界天然痘根絶宣言をしました。

古くから最も悲惨な病気のひとつであった天然痘の根絶は、人類の歴史上でも画期的な偉業と言えましょう。これはWHOの強力な天然痘根絶計画の遂行によって全うされたものですが、そこに至るまでの多くの先人たちの種痘普及に捧げられた努力、さらにさかのぼればジェンナーの牛痘種痘法の発明を忘れることは

できません。

天然痘が根絶された今こそ、人類の天然痘との闘いの跡を顧み、ジェンナーの功績を讃えるのに、最もふさわしい時と思われまふ。

今回の特別展には、国内外から多数の貴重な資料が提供されました。

このようにジェンナー及び種痘に関する国内外の資料が一堂に展示されることは、明治29年に上野で催された「善那氏種痘発明百年記念」の展示会以来のことであり、また、それ

に優るものでもあります。

天然痘が根絶された今日以降、本テーマで大きな展示会が催される必然性も極めて稀薄であることを考えると、今回の展示は文字通り空前絶後にして千載一遇のものではないかと思われまふ。

ジェンナーに始まる種痘の普及に努力した先人たちの功績を顕彰し、ワクチンの過去と現在を理解し、明日を展望する展示として、ぜひともお近くの会場で、ご覧下さい。

## 天然痘とは



エジプト王朝ラメス5世（紀元前11世紀）のミイラの顔面に、天然痘の痘疤がみられます。

わが国でも「日本書紀」（720）や「続日本紀」中に、天然痘らしい記事がみられ、この恐しい疫病が人類の歴史とともにあり、人々を戦慄させていたことがわかります。

空気中のウイルスを吸入して約12日の潜伏期の後、突然めまいや激的な頭痛、高熱が始まります。発病初期の2～3日間紫斑状あるいは点状の出血か紅斑が出、3～4日めには真の発疹が顔や手からやがて全身に出ます。続いて水疱ができて膿疱に変わります。6～7日めに熱が再上昇し、8～9日めに皮膚病変が乾き始め、痂皮ができて治癒傾向がみられるようになりますが、痘痕が終生残り、失明することも少なくありません。無論、死亡率も大変高いものでした。



▲WHOの患者確認カード

## 疫病への恐れ、そして祈り

これといった予防法もない頃、人びとはなす術もなく、ただただ神仏に祈り、まじないにすぎるより仕方がありませんでした。



◀ベニンの天然痘神：サボナ



▶インドの天然痘神：シトラ・マタ

### ▶痘瘡守護善神(感応寺)

▼赤絵 天然痘の鬼は赤い色を嫌うとされ、病人も家族も赤い着物をまとい、玩具や絵草子までも赤づくしにしました。縁起物が画かれた赤絵は、回復後、川へ流してしまいうのであまり残されていません。



▼痘瘡除けの郷土玩具も各地に見られます。



## ジェンナー以前の天然痘予防法 — 人痘種痘法

一度天然痘に罹った人は、二度と罹らないという事実を、経験から掴み取った人間は、患者の痘漿(うみ)や痘痂(かさぶた)を人工的に他の人に移し植えて局所的に軽い天然痘にかからせ、激しい自然流行の天然痘に罹らないように予防する人痘種痘法を試みていました。

誰が最初に人痘種痘法を発見したかは定かではありませんが、医学史上、中国式とトルコ式の人痘種痘法があります。中国の最も古い記録は「痘疹定論」(1713年)で、奇しくもギリシャの医師ティモニーが、トルコ式人痘種痘を公表しているのと同じ年です。



▲中国式人痘種痘法の1つ、乾苗法痘痂を粉末にして銀管または竹筒で鼻腔内に吹き入れています。

▼トルコ駐在英國公使夫人モンタギューは、1718年帰国して人痘種痘法を紹介。トルコ式人痘種痘法は、皮膚に種痘刀で傷をつけ、痘苗を擦り込む方法で、後にジェンナーも牛痘種痘法でこの手技を利用しています。

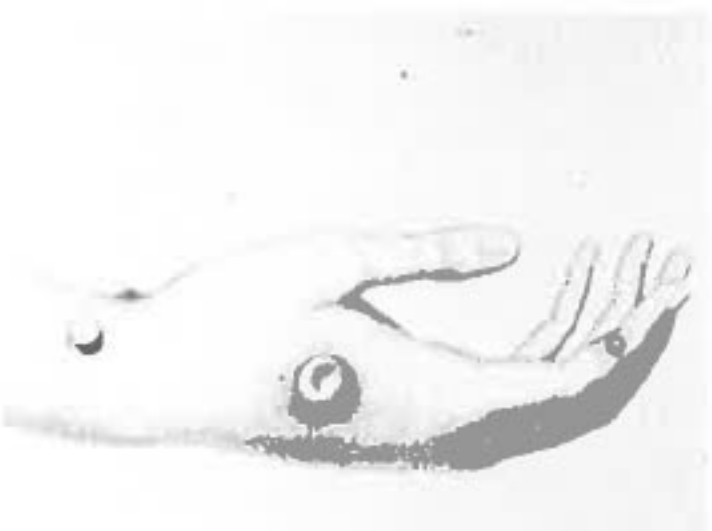


## ジェンナーと 牛痘種痘法の発明



1749年、英国バークレーで牧師の子として生まれたジェンナーは、長じて医師を志し、ソドバリーで外科医の助手として修業中に、乳絞りの婦人から興味ある事実を聞き出しました。つまり、牛痘に感染すると人の天然痘には罹らない、ということです。

1796年5月14日、牛痘に感染した乳絞りの女サラ・ネルメスの手にできた膿を、少年ジェームズ・フィップスに接種すると、病巣ができ、やがてそれは治癒しました。7月1日、再び天然痘を接種すると、やはり、感染は起こりません。こうして、牛痘種痘法が発明されました。



▲乳絞りサラ・ネルメスの手にできた牛痘



▲ジェンナーの使った種痘器具

▼書簡集



## 牛痘法の伝来と普及

わが国でも天然痘に苦しめられたのは同様に、長崎の蘭館医達がしばしば痘苗の輸入を試みましたが、何れも効力を失っており接種は失敗しました。

嘉永2年(1849)、モーニケのもとらした痘瘡によって、牛痘接種は急速に全国各地に伝播しました。



◀モーニケ



▶閑叟公於御前世嗣子淳一郎君種痘之図

佐賀藩主・鍋島閑叟の子、淳一郎の種痘風景(嘉永2年)



◀緒方洪庵の、「除痘館」を中心とした種痘事業は特筆すべき仕事といえます。



## WHOと天然痘根絶



▲天然痘根絶宣言書

1967年に建てられた天然痘根絶計画は、幾多の困難を乗り越えて着実に遂行され、1977年の10月末のソマリアの患者を最後に、自然発生の天然痘は絶えました。

1979年、WHOは世界天然痘根絶確認評議会を組織し、かつての天然痘流行国及び危険国を徹底調査しました。この報告に基づき、1980年の5月8日、WHO総会は、世界から天然痘が根絶され、この疾病が再び人類を悩ますことはないことを宣言しました。

今や天然痘は、完全に征服されて文献の中にだけ残るただ1つの病気となったわけです。

▶患者探しに対策員は、どこまでも出かけました。



◀ソマリア最後(世界最後)の患者

## 特別展会場からのお知らせ

◎会場では、見学の手引きあるいは後日の参考資料となるように、図録を置いています。ぜひ1冊お求めになられますようご案内致します。



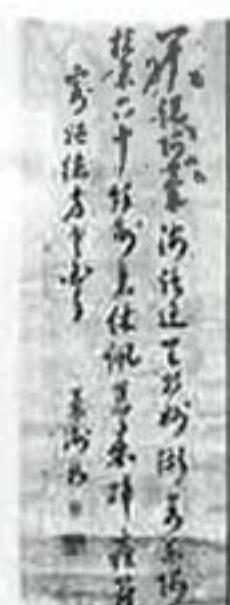
▲図録「天然痘ゼロへの道」  
B5版上製・116ページ・白黒（口絵カラー） 定価1,000円（送料300円）

◎5月14日は、種痘記念日です。ジェンナーが1796年5月14日に少年フィップスに牛痘接種をした日であり、わが国でも1871年、明治政府が大学東校から各府県に痘苗の頒布を命じた日でもあります。折りしも、この記念すべき日の頃は、川島のくすり博物館での特別展開期中です。大阪会場、東京会場でお見逃しになった方も、ぜひお越し下さい。

◎大阪会場と東京会場では、来場者のために「予防接種相談コーナー」が設けられます。これは特別展の副題（ジェンナーより未来のワクチン

へ）にもあるように、ワクチンに関してより理解を深めて頂くための企画です。担当者は、大阪会場では阪大・微生物病研究所の先生方、東京会場では都立駒込病院・感染症科部長の南谷幹夫先生です。

◎今回の特別展の“めだま”といえはたくさんあるのですが、洪庵に送られた種痘を讃える詩も、そのうちの1つです。詳細は割愛しますが、取り敢えず写真にて速報致します。



## 新収蔵資料

### ❁枇杷葉湯引札(5枚続き)国貞画

便宜上、見出しのような名称で呼んで、これまでも紹介したことのある錦絵ですが、従来当館には左側の2枚のみが収蔵されており、何とかして5枚続きものを揃えたいものだと思っておりましたが、やっとその願いが叶いました。ここにお眼にかけするのが、それです。購入。▶

## とぴっくす

### ▶Dr. スキナー（ロンドン科学博物館・学芸員）の来館

巻頭にあげたジェンナーの青銅像を今回の展示に出品するため、3月17日来日。通関に立ち合った後、くすり博物館を見学し情報交換を行いました。

同博物館はイギリスの国立博物館で、1851年のロンドン万国博の流れをくむ古い館で、特に蒸気機関など世界一の産業革命の博物館として有名です。1977年に増築された新館にヘンリー・ウエルカム卿のコレクションを中心とした医学史のウエルカム博物館があり、今回の展示では同

### ❁中国式薬煎器

お茶や薬草を入れて下から熱します。鄭瑞裕氏（エーザイ香港代理店 Louis Cheng Company 社長）から寄贈されました。



### ❁疱瘡除けの郷土玩具「猩々」ほか薬袋・初日カバーなど約20点

来館して特別展のポスターを見た齋藤文雄氏（滋賀県・薬局）から寄贈されました。中でも初日カバーは1950～60年代の医学史関係の逸品揃いです。



コレクションから、ジェンナーの遺髪やら最初に牛痘を取った牛の角やら、種痘具やら多くの資料の出品をして頂いています。

▶訃報 前川久太郎氏（東京医科大教授・解剖学）が、1月20日ご逝去。同氏は民具の研究でも知られ、当館にも非常に多くの資料を寄託、長年にわたって懇意な協力を頂いておりました。53才と、まだまだお若かっただけに大変残念でなりません。慎しんでご冥福をお祈り申し上げます。

### ▶北京医学院院長一行の来館

4月3日、馬旭院長ら5名が博物館を見学されました。去る3月15日

には、やはり中国から家族計画科学視察団の一行が来館しています。

▶Dr. カール・フォーカス（テキサス大学生物医学研究所長、スタンフォード・リサーチ・インスティテュート教授兼所長）が昨年11月末に来館。11年ぶりです。

同氏は、初めてビタミンB群やストレプトマイシンの化学構造を明らかにし、悪性貧血に卓効を奏するビタミンB<sub>12</sub>の単離という業績もある著名な化学者です。1958年、コエンザイムQ<sub>10</sub>の構造を決定されたのも同氏です。開館当初と比べて、ずい分充実したと大変お褒め頂きました。